ベジフル SAGA （2024 年９月号）　～ 病害虫防除 ～

ナシやブドウの収穫は終盤を迎え、ミカンでは極早生品種の収穫が始まります。収穫作業でお忙しいとは思いますが、収穫前には果実腐敗等の対策、収穫後には次作への伝染源を減らすための各種薬剤防除が必要となりますので、以下を参考に防除を徹底してください。まだまだ暑い日が続いておりますので、体調管理には十分注意して作業を行いましょう。

果樹全般

●果樹カメムシ類

本県を含め全国的に発生が多くなっており、各種報道、情報を目にするところです。以下を参考に引き続き警戒をお願いします。

令和６年７月 16～18 日に農業技術防除センターが行ったヒノキ樹上における果樹カメムシ類の寄生状況調査の結果、寄生数は平年より多い状況で、果樹園への飛来時期は、県平均として概ね９月１半旬頃と予想されています。(令和６年７月 26 日付け病害虫発生予察情報予報第４号参照)。

ただし、山林の餌（ヒノキ毬果等）の状況等によって発生量や果樹園への飛来時期は変わってきますので、園内をこまめに見回り、飛来や加害が確認された場合は、早急に薬剤による防除を行うようにしてください。また、最新の県内各地の予察灯やフェロモントラップによる本虫の誘殺状況、ヒノキ毬果上の寄生数および口針鞘数等の情報は、農業技術防除センターHP に掲載されていますので、参考にしてください。

露地カンキツ

●黒点病

秋雨時期も本病の主要な感染時期であるため、散布間隔が空かないよう引き続き薬剤防除を徹底してください。マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布する場合は、収穫前日数や使用回数（４回以内）に注意し、温州ミカンは 400～600 倍（収穫 30 日前まで)、その他中晩柑等は 600 倍（収穫 90 日前まで）で散布します。

すでにマンゼブを含む農薬を４回使用している場合は、ナティーボフロアブル 1,500 倍（収穫前日まで）やストロビードライフロアブル 2,000 倍（収穫 14 日前まで）等を散布してください。

●褐色腐敗病

過去、本病が発生したことのある園では、下垂枝の枝吊りを行い地表面との距離を保ちましょう。また、台風前には、マルチがめくれないように補強を行ってください。発病した果実があれば伝染源となるため、早急に除去して園外で適切に処分してください。

防除は、黒点病の防除を兼ねてマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布します。発生が問題となる園で８月下旬にマンゼブ水和剤を散布していない場合は、直ちに散布するようにしてください。なお、マンゼブを含む農薬をすでに４回使用していた場合や収穫間際に発生がみられる場合は、収穫前日まで使用できるランマンフロアブル 2,000 倍、レーバスフロアブル 2,000 倍、アリエッティ水和剤 400 倍のいずれかを散布します。ただし、アリエッティ水和剤を高温時に散布すると日焼け果の発生を助長する場合があるので、早朝の涼しい時間帯に散布するようにしてください。

●果実腐敗病（緑かび病等）

園内で腐敗果を見つけた場合は早急に取り除き、園外で適切に処分してください。ハナアザミウマ類による被害果も果実腐敗が発生しやすいため取り除きましょう。

薬剤散布は、収穫７～10 日前にベンレート水和剤 4,000 倍（またはトップジンM水和剤 2,000 倍）とベフラン液剤 25　2,000 倍の混用散布またはベフトップジンフロアブル 1,500 倍を散布します。薬液を調整する際は、必ずベンレート水和剤（またはトップジンM水和剤）を先に溶かしてからベフラン液剤 25 を溶かしてください。逆の順番で溶かすと沈殿を生じます。なお、ベンレート水和剤、トップジンM水和剤、ベフラン液剤 25 はそれぞれの単用散布では効果が劣るため、必ず先述したような混用散布を行って下さい。また、散布の際は薬液が霧状に出るディスクノズル（新広角二頭口ノズル等）を使用し、果実を１個１個包み込むように丁寧に行ってください。

本病菌は果皮の傷口から感染します。果実を傷つけないよう、以下の点に注意してください。

・結露時や降雨時などは、果皮が濡れて傷つきやすいため乾いてから収穫する
・収穫かごやコンテナの中をよく確認し、小石や枯枝は取り除いておく
　また、収穫時はこれら異物が混入しないよう注意する
・収穫の際は必ず二度切りを行う
・地面に落とした果実、傷のある果実は処分する
・黒点病が多発生した園や樹の果実は分けて収穫・貯蔵する
・コンテナに果実を入れすぎないようにする

●かいよう病

本年は裏年傾向にあって新梢の発生が多く、梅雨期に長雨もあったことから、例年より発生が多い園が見受けられます。本病の発生が多い園や前年にかいよう病が多発した園、本病にかかりやすい中晩柑類、幼木園、高接園、高糖系温州が植栽された園、隔年交互結実栽培の遊休年の園では、８月号で掲載した薬剤の表を参考に防除を徹底してください。また、前回の薬剤散布から累積降雨量 150～200㎜ もしくは薬剤の残効期間　ボルドー剤 30 日、クレフノン加用銅水和剤 20～25 日を目安に散布を行ってください。ただし、台風等の襲来が予想される場合は、襲来後の防除では効果が劣るため、台風襲来７日前～前日までに散布します。

ミカンハモグリガによる被害痕は病原菌の侵入口となり、本病の感染を著しく助長します。そのため、新梢伸長期～硬化期に防除を行い、被害葉はできるだけ取り除きましょう。

●アザミウマ類

チャノキイロアザミウマに対して８月中旬以降に薬剤散布をしていない園では、９月上旬にベストガード水溶剤 1,000 倍、モスピランＳＬ液剤 2,000 倍等を散布します。ミカンサビダニと同時防除する場合は、コテツフロアブル 4,000 倍やアグリメック 2,000 倍を散布してください。

また、梅雨明け以降高温、乾燥が続くと、ハナアザミウマ類による果実被害が発生する恐れがあります。本虫は果実と果実が接している部分や果実と葉が接している部分などに多く寄生して加害しますので、園内を見回り、被害を確認したら早急にスピノエースフロアブル 4,000 倍やハチハチフロアブル 2,000 倍等を散布します。

なお、園周辺の雑草の花等は本虫の増殖源になるため、開花前に除草してください。

●ミカンハダニ、ミカンサビダニ

ミカンハダニは園内の発生状況をこまめに確認し、低密度時からの防除を心がけましょう。薬剤抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤の使用は年１回とし、昨年使用した薬剤は使用しないでください。

ミカンサビダニの被害が認められた場合は、早急に防除を行ってください。使用する薬剤は表を参考にしてください。

表 ミカンハダニ、ミカンサビダニに対する薬剤の例

対象	IRACコード	薬剤名	希釈倍率
ミカンハダニ	6	コロマイト水和剤	2,000倍
	20B	カネマイトフロアブル	1,000倍
	25A	スターマイトフロアブル	2,000倍
	25B	ダニコングフロアブル	2,000倍
ミカンハダニ　　＋ ミカンサビダニ	23	ダニゲッターフロアブル	2,000倍
	23	ダニエモンフロアブル	4,000倍
	25B ＋ 21A	ダブルフェースフロアブル	2,000倍
	25A ＋ 21A	スターマイトプラスフロアブル	1,000倍
	6 ＋ 10B	メビウスフロアブル	2,000倍
ミカンサビダニ	19	ダニカット乳剤20	1,000倍
	20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍
	21A	サンマイト水和剤	3,000倍

ナシ

●黒星病、炭そ病

‘新高’等の晩生品種が混植されている園では、アミスター10 フロアブル 1,000 倍（収穫前日まで）やストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫前日まで）を散布します。

収穫が終了した園では、デランフロアブル 1,000 倍（収穫 60 日前まで）、キノンドーフロアブル 1,000 倍（収穫３日前まで）等を散布します。その際、周囲に収穫が終わっていない園があれば薬液が飛散しないよう十分に注意して散布を行ってください。

●ハダニ類

ハダニ類の発生が多い園が散見されます。ハダニ類の発生がみられる園では、コロマイト水和剤 2,000 倍、カネマイトフロアブル 1,000 倍等を散布します。発生初期の防除が最も効果的なので、収穫後でもこまめに園内の発生状況を観察し、発生が認められたら早急に防除を行ってください。

●フタモンマダラメイガ

９月中旬頃までにフェニックスフロアブル 4,000 倍を主幹、主枝に対して十分量散布します。スピードスプレイヤーでは主幹・主枝への付着が劣るため、できる限り手散布で対応してください。

また、虫糞が粗皮の割れ目から出ている場合は、粗皮を削って生息している幼虫を捕殺します。ただし、過度に粗皮を削ると柔らかいカルスが形成され、この部分に本虫が再び寄生する恐れがあるので、削りすぎないよう注意してください。

ブドウ

●べと病

本病による早期落葉を防ぎ、翌年の伝染源を減らすために、収穫後も防除を行います。特に今年は発生が多かったことから防除を徹底しましょう。薬剤はボルドー液（ＩＣボルドー48Ｑ、66Ｄ）50 倍を使用し、散布の際は展着剤のアビオンＥ 1,000 倍を加用してください。

モモ

●せん孔細菌病（モモ）、黒斑病（スモモ）

秋季の感染を防ぐため、９月上旬から 10 月上旬にかけて薬剤を散布します。モモではＩＣボルドー66Ｄ50 倍もしくはＩＣボルドー412 30 倍、スモモではＩＣボルドー412 30 倍を散布します。特に台風等の強風雨によって感染が助長されるので、台風が予想される場合は、襲来前の防除を徹底してください。

カキ

●炭そ病

収穫期前に降雨が多い場合は、果実に多発するので防除を徹底しましょう。特に台風通過後は多発するため、台風の接近が予想される場合は、事前に必ず防除を行ってください。

ストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫 14 日前まで）やオンリーワンフロアブル 2,000 倍（収穫前日まで）、ナリアＷＤＧ2,000 倍（収穫前日まで）を樹幹上部までしっかりかかるように散布します。

また、炭そ病が発生した夏枝等は果実への伝染源となりますので必ず除去し、園外等で適切に処分してください。

キウイフルーツ

●クワシロカイガラムシ

９月中下旬（３回目の幼虫発生期）にモスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍（収穫７日前まで）等を散布します。ただし、一部品種では使用できる農薬に制限があるため、栽培暦等を確認して薬剤を選択してください。

病害虫発生状況等の最新の情報は、県農業技術防除センターＨＰに掲載されていますので、防除対策等にご活用ください。

※HP の QR コードはこちら